

【特集】 謎の三角点探索と展望の山歩き

羽賀山―関八州見晴台

埼玉県

町田 尚夫

返ると大高取山と桂木山の稜線が浮かび上がってくる。429m標高点の肩を越すと、龍穩寺を指す朽ちかけた道標が右側に立っている。

さらに登り続け、傾斜が緩めば羽賀山の頂上は近い。道なりに進むと巻い

奥武蔵の人気スポットの一つ関八州見晴台は、アクセスの良い西武線の吾野側のルートを利用する機会が多いが、東武線の越生側からも四寸道（本誌652号参照）、花立松峠道、傘杉峠道などがある。今回は羽賀山と野末張見晴台を結んで冬枯れの道を歩いた。

越生駅前から黒山行きのバスに乗り、麦原入口で下車、あじさい街道に入る。シーズンにはにぎわう道も今は閑散としている。戸神までは例年10月最終日曜日開催の武蔵おごせハイキング大会のコースなので、要所に道標がある。10分ほどであじさい街道と分かれ左

折して龍穩寺へ通じる道に入る。右手に形のよい二つの三角峰が寄り添うようにそびえている。

山あいを経グザグに登ると、明るく開けた戸神の集落に入る。ナツミカンの実が鈴なりのまま放置されている。畑仕事の男性に、目の前に見える三角峰について聞いたが道はないそうだ。石灯籠の立つ辻で、龍穩寺への道を左に分けて直進する。

集落を通り過ぎ、「野末張見晴台・飯盛峠 あじさい山」と記した新しい道標から山道に入る。すぐ先を左に折れば後は一本道、羽賀山まで300mの標高差をひたすら登るだけだ。振り



野末張見晴台

羽賀山―関八州見晴台付近略図



てしまうので右側に注意して歩き、石
灰岩の露岩が現われたら右へ登れば頂
上に着く。三等三角点(点名・羽加山)
標石は無く、一帯に岩塊が散らばり、
立ち木に「羽賀山566.5」の私製標
識が付いている。杉、ヒノキの植林に
覆われ展望はない。

国土地理院のホームページで基準点
成果を調べると、基準点詳細には「正

常」とある。点の記を閲覧すれば事情
が分かるかと思ったが未作成だ。この
三角点の謎について、越生町役場や、
国土地理院関東地方測量部の担当者に
電話で照会したが、はっきりした回答
は得られなかった。

越生町内には三等三角点が4点あり、
他の3点はすべて明治35(1902)
年設置なので、羽賀山の三角点も同時

期と思われるが実情は不明である。今
度改めて現地を調べ、前回と同じ状態
なのを確認した。しかし最新の11年の
基準点成果では「正常」のままになっ
ていて、依然謎のままだ。

稜線を西へ進んで登山道に戻り、あ
じさい山分岐を過ぎると尾根を平らに
ならした造成地に出る。平成20年に地
元の龍ヶ谷集落でしだれ桜を植樹した
場所で、東南方の眺めが良く顔振峠見
晴台や越上山が間近に見える。東京ス
カイツリーも望めるはずだが、あい
にく逆光で見られない。

梅本林道を横切って上がると野末張
見晴台に着く。ビュー・ポイントで、
ベンチで休憩しながら眺めるのによい。
北西方向指呼の間に堂平山の天文ド
ームが見える。目を引くのは北の方、
上越から日光にかけての山々だ。子持
山を隔てて白銀に輝く谷川連嶺、手前
の赤城山も頂上付近は雪をまとい
ている。日光方面は奥白根山の真っ白い峰
頭と、縞模様様の裾を広げた男体山がひ
ときわ目立つ。その右には帝釈山と

女峰山が雪峰を連ねている。

野末張見晴台は標高620[㊦]、日陰には先日降った雪が残り、休んで居ると寒くなる。林道を歩き出すと、進むにつれて残雪が増えてきた。日陰は凍結していて滑るが、雪が緩んだ日なたを拾って歩けばアイゼンは必要ない。

飯盛峠への山道を右に分け、グリーンラインに出ると車の通行もあり、歩きやすくなった。車道を進むと右後方が開け、蕎麦粒山から武甲山、両神山方面の展望が広がる。左手の道標から関八州見晴台への道に入る。日陰で残雪が凍り、スリップするので立ち木につかまりながら登る。無線アンテナが立つ小屋の脇を通り過ぎると、関八州見晴台に飛び出す。

この標高は760[㊦]あるが、日当たりが良いので雪は全然ない。中央に高山不動尊奥ノ院が鎮座し、隣にあずまやが建っている。昔は関場ヶ原(勘定ヶ原)と呼ばれ、堂宇が立ち並んでいたと伝えられるがその名残はない。

関八州見晴台は展望の素晴らしさに

定評があり、今日も大勢のハイカーが眺めを楽しんでいた。太陽が南へ回って丹沢方面は逆光で霞み、富士山は雲に隠れてしまったが、奥多摩から長沢背稜、手前の奥武蔵、秩父にかけては大バノラマが広がり、同定に忙しい。思いがけない発見は、武甲山と両神山の間に見える御座山だ。両神山の右に、小鹿野の二子山の岩峰を視認できたのも嬉しかった。

好展望を満喫して南へ下る途中で、新ハイキングクラブのクリーダーのパーターに行き会った。関八州見晴台から、不動三滝を巡ることだ。

春秋の好季節にはハイカーや参詣者でにぎわう高山不動尊は、冬場なので森閑としていた。高山不動尊は、成田不動、高幡不動とともに関東の三大不動の一つに数えられる霊場で、本尊の軍荼利明王立像は国の重要文化財に指定されている。壮大な不動堂にお参りして下りにかかる。

西吾野駅への道は、いつ歩いても心が落ち着く道だ。尾根通りの葉の落ち

た木々の間から、高畑の集落がちらほらのぞき見える。石地蔵の辻でバノラマコースを分けると萩ノ平茶屋跡に着く。廃業して久しいが、今でも「萩の平茶や」の看板と建物が残っている。歩き込まれた道を問野へ下り、北川林道に出れば西吾野駅は問もなくである。

(12年2月19日(日)歩く)

●コースタイム

越生駅(バス15分) 麦原入口―40分―
戸神―1時間―羽賀山―15分―野末張
見晴台―55分―関八州見晴台―20分―
高山不動尊―30分―萩ノ平茶屋跡―45
分―西吾野駅 [計4時間25分]

●費用

池袋⇨越生 東武 700円
越生駅⇨麦原入口 バス 230円
西吾野⇨池袋 西武 610円

●問い合わせ先

川越観光バス

0493-56-2001

●地図

越生 正丸峠(2万5千)
東京(20万)